

お茶の水「サラファン」

薄暗いカウンターに陣取り
使い込んだ白い皿から
脂ぎったオードブルをつまみ
ウォッカをぐいと干して、ちらりと
お^かみ^み主人を見上げれば、あちらも
微笑を浮かべていた

煙草の煙が立ちこめて、ゆらりと
目の前を漂ってゆく・・・
明らかに太り過ぎの女主人は
乱暴な手つきでニンジンをぶつ切りにし
さも愉快そうに鍋に放り込み
私は煙を鼻から吐き出した

胃袋のけだるさが夜を溶かし
はしゃぎ騒ぐ学生の声は遠のき
私は夢見ている、夜の立ち去る頃の
群青色の都会に白む街灯を
私は想っている、浮浪者が過ごす
夜と昼とのけだるい繰り返しを

(1985.4.15)